

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902280		
法人名	有限会社 環境設備		
事業所名	グループホーム プランタンⅢ (東ユニット)		
所在地	旭川市9条通16丁目24		
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復師による施術サービス(毎週水曜日) ・介護員の日頃からの機能回復訓練や歩行訓練 ・毎月のイベント開催による、余暇時間の充実 ・食事が美味しい(新入居者様からは、必ずこの言葉が出ます) ・“否定しない”言葉掛けを実践 ・アットホームな雰囲気作り→職員も入居者様も仲が良い!

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902280&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム プランタンⅢ」は、旭川市のほぼ中心にあり、公的機関や商業地として大きなスーパーや学校が近隣にあります。運営母体である整骨院から、毎週、利用者に施術サービスが施され、楽しみと心地良さが提供されています。中学校の職場体験学習や実習の受け入れ、ボランティア活動に力を入れ社会貢献もしています。外出行事で花見・花フェスタ、冬祭り見学のドライブや、中学校の文化祭見学で利用者との相互交流を図り、社会との交流の機会を多く作っています。職員は、利用者が少しでも楽しく笑顔で暮らせるように、表情や様子から変化を読み取るように積極的に関わっています。今後も利用者が楽しんで頂ける企画や、日々の温かい支援に取り組みとの姿勢が見えます。地域密着型サービス事業所として地域に根差し、相互協力のもとで福祉の拠点として活躍が期待されます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			自己評価	実施状況	外部評価	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所として理念を掲げ全職員が周知・実践している。	運営理念は継続され、今年度は「発見・受容・判断」3項目の介護理念を新たに掲げています。ホーム内に掲示し、職員は常に意識することで実践に繋がっています。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の学校行事等には積極的に見学参加している。	外出時に近所の方々と挨拶したり、自宅で栽培した野菜の交換など、積極的にに関わり、地域の中学校とは、体験学習の受け入れや、文化祭の見学で相互交流に努めています。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流を協議したいと考えているが、実現には至っていない。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の状況、開催イベント、問題点を報告し、病院の考え、家族の考え、第三者の考えの話し合いの場を設けている。	運営推進会議は、地域住民や家族等の構成で、3ヵ月に一度の開催となっています。事業報告や利用者の状況、外部評価結果を報告し、サービスの質の向上に活かしています。			運営推進会議開催の定例化と、幅広いメンバー構成で、行政や他職種、現場の職員の参加を検討し、サービスの質の向上を目指す取り組みを期待します。議事録を家族へ送付する事で、家族の理解が得られ情報の共有となります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導、市町村主催の講習に参加したり、入居者の金銭的虐待が疑われたケースに関しては早期解決を図っている。	地域包括支援センター主催の研修に参加したり、ホームの実情やケアサービスの取り組み、状況を報告しています。市へは問い合わせや各種手続きも行っていきます。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の同意の上、かつ本人・他利用者の生命が重大な危険にさらされる場合以外は行っていない。過去2年間実績なし。	身体拘束防止マニュアルを作成し、内・外部研修を通して、職員は身体拘束をしないケアを理解し実践しています。日常のケアの中で、言葉かけや行動抑制にならないよう全員で心掛けています。必要な時は、家族に細かく説明し同意が得られています。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	可能な限り虐待防止セミナーに参加し、それをミーティングで話し合いをしている機会を設けている。しかしながら旭川での講習機会が今年度なく実績としては今回は務めきれていない					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について調べたり、研修の機会には積極的に参加するようにし、必要としている利用者には説明機会を設けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な理解を得られなかった場合は、随時説明し納得を得ている。解約の場合もお互いに納得できる説明機会を設けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者等の生の声を大事にし、即解決する様に努めている。	面会時や行事の参加で家族との交流を図り、意見や要望が言いやすい雰囲気作り心がけています。会話の中で、ケアの思いや要望を取り入れるようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善事項や提案があれば積極的に聞き入れ、反映するよう努めている。	月1回定例開催される全体会議や各ユニット会議では、職員の意見を大切にし、提案が率直に出され、利用者の生活の質向上・ホームの運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内の業務でわからない事がなくなるように一つ一つに仕事の役割を変え、確実にできる仕事の幅を拡大している。能力に合わせた課題を出し、向上心を養うよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人育成のために話し合いを持ち、段階に応じた指導をしている。管理者・職員共に研修や講習にも参加し、勉強してきた事をミーティングの中で発表し、職員全体の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年夏季に他の事業所とお互いに職員を行き来させ、見学研修を行い現状に満足する事ない様に取り組んでいる。今年度のみ未施行。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は利用者にとって不安が沢山あるので、難しい話はせず事業所内での過ごし方や生活の流れを本人の理解力に合わせて説明し、不安を取り除く努力をしている。職員も利用者のペースに合わせて過ごせるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望者の状況を聞くと共に、家族の心配される事や意向等なるべく細かく聴取し、利用者にとって楽しく暮らしていける環境を構築できる様話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望者の状況と希望するサービスを聞き、専門分野の方の意見も伺い、適当な支援に沿う様対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で出来る事（調理等）を共同で作業したり、一緒にカラオケを楽しむ等、介護する反面、同じ目線で物事を捉えお互い助け合い、協力する様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と十分に連絡を取りながら、仕事として支援するだけではなく、家族と同じ立場で物事を考え利用者のために何が必要か・どう対応すべきかを相談し、家族の意向に沿う介護に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・友人からの手紙・電話等の取次ぎを行い、グループホームの生活で今までの関係が途切れる事のない様協力している。	一人ひとりの生活スタイルを尊重し、個別の支援をしています。友人の訪問や電話の対応、地域住民の方々との関係作りに努め、声掛けや挨拶をする事で馴染めるようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら共同で作業等を行ってもらっている。時に言い争いや喧嘩になる事もあるが、利用者・職員で一つの家族となり話し合いながら、随時解決している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了以降でも随時、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族とのコミュニケーションを密にする様心掛け、少しでも本人が過ごしやすい環境を整え、希望に添える様に日々努めている。	生活歴や日々の記録、家族からの要望、寄り添う事で、利用者の思いを感じ取り、自己選択を尊重することで、意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た情報以外で、ご本人から確認した情報で不明なものに関しては家族と確認しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での情報共有が出来る様に毎日出勤時に申し送りしている。1カ月に1回は全体ミーティングをし全スタッフが利用者の状況が把握できる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となり把握した必要な情報を共有し、本人・家族に同意して頂ける介護計画となるよう努めている。	介護計画は日々の記録と連動し、アセスメントやモニタリングも充実した記載となっています、現状に即した計画を作成し、見直しは6ヵ月毎で、状況に合った変更もしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の違いや様子を分かりやすく記載する様にしているので、利用者の変化等の把握が素早く出来る。その把握した内容を介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望は最大限活かし、意向・要望に沿う様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて交流の機会を設けたり、近隣中学校やボランティアと上手に連携させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者自身の訴えも活かしながら、基本的に管理者が連携看護師に相談し、判断できない場合は主治医等と連絡・相談しながら支援している。	かかりつけ医への受診支援をしています。往診体制も整い家族へ結果を報告しています。看護師の健康観察も定期的に行われ、利用者や家族の安心となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特に入浴時に身体チェックを重点的に行い、少しでも異常や変化があれば連携看護師に相談対応している。看護師が判断できない場合は医師等にも相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化に伴い随時、家族・医師と確認、相談し情報を共有し対応している。終末期は連携看護師が中心となり、対応する手筈としている。	重度化や終末期に向けた方針や指針が整備され、同意も得られています。家族の意見を大切に、医療関係者を中心にチーム全体で話し合い、支援出来る体制の整備に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	大半の職員は救急の講習を受講しており、マニュアルでも対応している。その場での判断が困難な場合は看護師、管理者に判断を仰ぐようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は非難マニュアルと避難訓練を年2回昼夜を想定して行う。洪水ハザードマップも利用しているが訓練には至っていない。	設備会社の協力で、年2回、昼夜の避難訓練と通報訓練等を実施しています。職員の各種研修も継続し、緊急に備えています。地域へ災害時の協力の依頼を継続検討しています。	災害時には、職員のみ誘導には限界があり、運営推進会議等で、地域住民にホームの災害対策について理解を求め、協力体制強化の検討を期待します。災害発生に備えて、食料や飲料水・排泄用品・防寒用品等の準備も大切です。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけることのない様子掛けており、排泄の声掛け等は利用者の側で行うようにしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳ある接遇を行い、個人情報の保護についても適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思をしっかりと訴えられる利用者には積極的に話を聞き希望している事が出来る様に支援し、訴えられない利用者には聞き取った内容から分かった範囲での支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内で危険がないと判断できる範囲で自由に生活して頂いている。突発的に外出を希望されても職員同行で対応できるよう可能な限り努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容を利用している。肌そりは職員が定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの芽取り等調理の下準備やテーブル拭き、手の消毒・後片付け等の出来る事は一緒に行っている。	配食業者の献立は、ホームで確認し変更もしています。身体状況に合った食事の提供もあり、外食や出前、行事食等で変化も付けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みに合わせ摂取しやすい工夫を行いつつ、毎日の食量・水分摂取状況を確認、記録し、水分摂取量が少ない場合はその都度促している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にはうがいをを行い、状況により舌磨きも行っている。就寝時には歯磨き・義歯洗浄も行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄が出来る様に心掛けている。一人一人の排泄パターンを捉えながら定期的な促しも行っている。	トイレ排泄を基本に排泄パターンを把握し、声かけ誘導を頻繁に行っています。リハビリパンツやパットを利用しながら、排泄の自立を促す支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、腹圧マッサージを行う等の工夫を行っている。又、担当医にも状況を伝え排便コントロール出来る様努め、看護師と相談し対応している。			
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を定めているが、出来るだけ利用者の希望に沿う様努めている。体調不良等により入浴出来ない場合は振り替えて入浴している。失禁時には必要によりシャワー浴の対応をしている。	週2回入浴日を設定していますが、身体状況や天候に合わせた入浴・清拭・シャワー浴も適宜対応しています。職員は、入浴中などは、安全な介助や自立支援に心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	周囲に迷惑をかけない範囲で自由に休息して頂いている。但し、昼夜逆転や足のむくみを懸念し職員が促す事もある。夜間は楽器演奏や大音量でのテレビ鑑賞は控えて頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院後、薬の変化がある場合は徹底した申し送りや情報の共有を図り、一人一人が責任を持って対応している。就業して間もない職員（把握していない職員）には服薬の支援はさせない。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗面所や共有スペースの掃除や洗濯物をたたく等の利用者が出来る事は極力実践してもらい、一人一人の趣味や興味のある事は積極的に出来る様支援している。又、事業所内外のレクリエーションの機会を設け気分転換が出来る様努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	原則的に一人での外出はお断りさせて頂いている為、希望が出た時は随時対応。定期的に外出レクリエーションを開催している。	散歩や買い物、一人ひとりの希望を大切に外出支援に取り組んでいます。ホーム全体での外出行事では、花見、祭り見物、花フェスタ、冬祭りへのドライブ等、五感刺激にも配慮した外出に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	保管は利用者及び家族の判断に任せている。但し自室でお金を持っていたり利用者は紛失しても施設側は責任を負えない事を了承して頂いている。大きなお金に関してはホーム金庫も活用し利用者の能力により出納対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間スペースと食堂を分け、寛ぎの場所を作り、共同スペースは整理整頓・清潔に努めている。季節に合わせた装飾や外出・イベントの思い出の写真を貼る等の工夫をしている。	整理整頓されたリビングには、利用者が団欒しやすいよう、テーブルや椅子を配置しています。季節感を取り入れた装飾や利用者の行事や外出時の写真が貼られ、語りのきっかけとしています。室温や湿度も適宜調整されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間に一人になれる所はないが、思い思いに生活できている。悩み事や他人に聞かれたくない相談等は事務室で話し合うようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力してもらい、本人の好み・馴染みの物を揃え、居室は利用者独自の空間となるよう配慮している。	利用者や家族の要望に応え、生活しやすい居室作りを支援しています。使い慣れた家具や物品を持ち込み、写真や装飾で個性を出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個人に合わせた話をしたりして「わかること」を引き出し、必要箇所には手摺を設け、自力歩行が出来なくても自立出来る様工夫している。		